

ワケ カタチには理由がある(100)

Shape follows
Function & Taste

～サーブ(Saab)105



(同じくサイドバイサイド座席を有する練習機の T-46 と→)

スウェーデンの Saab 社が開発した練習機です。

1967年に初飛行していますが、未だ現役のようです。正確に言うと、軍用機は SK60 という形式名の

ようですが、4人乗りのビジネス機も提案されたためか、サーブ 105 で名前が通っています(なお、オーストリア空軍も採用し、Saab 105Ö という名称で採用しています。)。この機体に限らないのですが、サイドバイサイドの座席配置を施した機体は胴体の幅が大きくなって意匠的に映え、また、ドラマが展開する気分になります(『帰ってきたウルトラマン』のマットアロー1号や『クラッシャージョウ』のファイター1みたいなw)。特に、スウェーデンのこの塗装は、スカンジナビア半島の森林に溶け込む迷彩を施しながら、蛍光オレンジのマーキングを施したアンバランスさに魅力があります。

【模型について】

スウェーデンのマリボックス(Maribox)1/72のインジェクションキットです。残念ながら現在は活動していないようですが、同社は自国の軍用機のキットを製造販売していた会社で、ドラケンやビゲン以外の渋い機体を埋めてくれた貴重なメーカーでした。パーツの切り出しに苦労しますが、モールド自体はとてもよく、同社の自国機への愛情を感じました。15年ぐらいストックしてたものを制作しましたが、デカルが生きていたのが幸いでした。

(中川裕幸 2024年3月)

